

紙芝居を通じて見る筑豊の歴史

王塚跣原作、服部団次郎改作『筑豊一代』



復権の塔

日時：令和4年2月18日（金）

17：00～18：30（オンライン配信）

講演 「筑豊の歴史と体験を語る意味を考える」

講師 細井勇（福岡県立大学特任教授）

紙芝居 『筑豊一代』

上演 大西広幸（川崎町在住の紙芝居師）

筑豊は日本の代表的産炭地であり、日本の戦後の経済復興を支えたのが筑豊の炭鉱労働者であり、その過酷な労働でした。1960年前後、政府の石炭から石油へのエネルギー政策の転換によって、炭鉱労働者は労働の場を失うことになりました。炭坑閉山による炭住生活者の困窮、そこで起こったのが学生達による「筑豊の子供を守る会」でした。大西広幸（当時東京神学大学学生）さんは、この運動に参加することを契機に川崎町に入り、炭住で子ども会活動を担い、卒業後は川崎町に居住し、紙芝居をはじめ、40年になります。

炭鉱労働者の復権を願った牧師服部団次郎は、1970年に「炭鉱犠牲者復権の塔」の建設運動に乗り出します。紙芝居を通じて資金集めをしようとしました。小説『筑豊一代』を書いた筑豊の作家王塚跣はこれに協力、さらに炭鉱絵の画家山本作兵衛が協力することになり、紙芝居『筑豊一代』が誕生しました。この紙芝居をもって資金集めに奔走したのが大西広幸さんです。

皆さまとともに、紙芝居を通じて、筑豊の歴史、それを語るこの意味を考えていければと思います。



細井特任教授



紙芝居師 大西さん

◆参加費
無料



◆申し込み

右上のQRコードからお申込みください。
（ZoomのURLを後日送付いたします）

◆問い合わせ先

福岡県立大学 附属研究所
福岡県田川市伊田 4395
TEL：0947-42-1326（福岡）